

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	International Plant Molecular Biology (IPMB) 2018
演題名	Effects of phytohormone on the antheridium and prothalli formation in <i>Ligodium japonicum</i>
発表者	○ <u>Natsumi Ohishi</u> 1※, <u>Mizuho Takeda</u> 2※, <u>Nanami Hoshika</u> 2※, <u>Kyomi Shibata</u> 2, <u>Takao Yokota</u> 2, <u>Hisakazu Yamane</u> 1,2, <u>Masashi Asahina</u> 1,2,3 . 1 ; 帝京大・院・総合理工、2 ; 帝京大・理工・バイオ、3 ; 帝京大・先端機器分析センター ※ ; 本学の大学院生、卒研生 【植物生理学研究室】
内容	シダ植物の一種であるカニクサ (<i>Lygodium japonicum</i>) の造精器は、胞子を暗所でGA4 メチルエステルによって処理することにより、その原糸体上に誘導される。我々はこれまでに、GA4 メチルエステルによる造精器形成とプロトネマ伸長、および光環境下における前葉体形成が、プロゲステロン類やオーキシンによって制御される可能性を見出している。 フランス・モンペリエで開催された本学会 (https://www.ipmb2018.org/#about) では、カニクサの造精器・前葉体形成に対する植物ホルモンや生合成・極性輸送阻害剤の効果について、光学顕微鏡を用いて検討した結果について発表した。本研究の一部は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、私学事業団特別補助「大学間連携による共同研究」による支援を受け行った。
関連画像	